平成 26 年

11 月の普及活動状況

ダイジェスト版

～県下 10 農林事務所農業普及課と農業経営課（農業革新支援センター）の取組～

岐阜県農政部農業経営課

平成２６年１１月の普及活動状況ダイジェスト版

活力ある新産地づくり

中濃農林■ゆず　ゆず出荷スタート！　ゆず祭りも盛大に開催

関市上之保地域ではゆずが収穫期を迎え、11月3日から出荷がスタートした。本年は、11月にかみのほゆず株式会社と農業普及課合同でゆず園巡回を行い、ゆずの着色状況を把握した上で荷受け日程を決め、荷受け体制の確認を行った。生産者へは、着色したものから順次出荷してもらい出来るだけ出荷量が分散するよう、目揃え会やチラシで周知を図った。

その結果、今年は昨年よりも荷受から加工（搾汁、皮の下処理等）までをスムーズに行うことができた。11月中旬までに約15㌧のユズが出荷され、今後も12月初めまで出荷が続く見込みである。

【ゆず出荷場】

また、11月23日には「第９回上之保ゆず祭り」が開催された。当日は、天候に恵まれ、上之保地域内外から大勢の来場者があった。農林事務所では、毎年、上之保ゆず祭り実行委員会メンバーとして祭りの企画・運営に携わっている。

東濃農林■トマト・いちご・ブロッコリー　多治見市の直売所の新たな「顔」に！

多治見市の就農３年目のトマトポット耕農家Ｉ氏は、昨年は青枯病で苦しんだが、今年は原水を改良し、生育も順調で11月初めから収穫が始まった。心待ちにしていた消費者も早速、農産物直売所「駅北ファーム」や地元量販店で手にしている。

また、多治見市の「(有)廿原ええのお」のいちごは、今年は花芽分化も早く、品種「章姫」は11月中旬からの収穫となり、自社の直売所及び駅北ファームで販売を開始しており、間もなく「紅ほっぺ」の収穫も本格化する。廿原のいちごは、直売所でも入荷早々に売り切れる人気商品となっている。

【多治見市の直売所「駅北ファーム」】に並ぶブロッコリーとトマト

同じく廿原のブロッコリーについては、農業普及課による現地実証で取り組んだことで栽培技術も定着し、10月末より早生品種の「おはよう」から収穫開始となり、地元量販店及び農産物直売所への出荷も順調で、品質も良いことから好評を博している。

いずれの品目も全量が地産地消での販売であり、多治見の新たな冬の「顔」として、今年も多くの地元ファンの期待に応えてくれることを願っている。

下呂農林■スイートコーン　次年度に向けた勉強会を開催

下呂市スイートコーン研究会は、次年度に向けた準備を進めるため、11月7日に下呂総合庁舎で第４回研修会を開催した。

（株）サカタのタネより「スイートコーンの栽培と品種特性について」の講演が行われ、農業普及課からは26年度の品種選定や鳥獣害対策等の各種実証ほ、展示ほの結果について説明、また研究会の組織再編について提案した。

実証ほの担当農家からは本年の反省点や次年度に向けた意気込み、直売所からは生産量の増加を望む意見などが活発に出された。

【第４回研修会】

今後は、生産量の増加に向けた栽培者の確保等に努めてゆく。

売れる農畜産物づくり

岐阜農林■いちご　羽島いちご振興会が研修会を開催

11月5日、羽島市いちご振興会は、ＪＡぎふ小熊支店において、本年度取得した「ぎふクリーン農業」登録に係る集合研修会を開催した。農業普及課は、病害（ダニ、うどんこ病）発生の一要因となっている葉の混み過ぎを葉かき作業で回避するなどを指導した。今後も、現地巡回等を通じて、健苗育成に向けた技術支援を継続するとともに、本ぽでの適正管理をテーマに研修会を開催することとしている。

【栽培講習会】

農業経営課■かき　「富有」の主産地選果場を巡回し意見交換

本県の重要品目である柿「富有」の出荷最盛期を迎えた11月18日、かきを担当する普及指導員の情報交換を図るため、県内主要４産地（岐阜市、本巣市、瑞穂市、大野町）のかき選果場を巡回して、各振興会の選果方法の違いや出荷状況等について情報収集を行った。

また、その後、すでに出荷を終了した「早秋」、「太秋」の今年産の生産・出荷における課題や担い手の状況、作業受託組織の動き等について意見交換を行い、今後の普及活動の参考とした。

【選果場巡回の様子】

農業経営課■畜産（飛騨牛）　家畜人工授精技術研修会開催

11 月 18 日、岐阜県家畜人工授精師協会（会長：岩根重典）は郡上市八幡町において技術研修会を開催し、家畜人工授精師等 36 名が参加した。研修会では、農業経営課の畜産担当革新支援専門員が「和牛の近親交配防止と種雄牛造成～名牛は忘れた頃にやってくる～」と題して講演し、健康で発育の良い子牛を生産するためには、家畜人工授精師が近親交配を避けることと独立した系統の複数の種雄牛造成が必要であることを解説した。

本年 11 月 27 日から、平成 29 年に宮城県で開催される第 11 回全国和牛能力共進会「肉牛の部」の出品牛生産に向けた人工授精が開始されることから、研修会では、具体的な交配例を示して、分娩される子牛の近交係数計算等について活発な質疑応答が行われた。

【技術研修会の様子】

戦略的な流通・販売

揖斐農林■かき　揖斐峡レディース ～大野町産富有柿「柿じゃむ」販売！～

農業普及課では、地元産の柿加工品を開発するため柿加工品プロジェクトチームを立ち上げ、関係機関と加工品開発に関する意見交換を行っている。チーム会議の中で、ＪＡいび川から大野町産富有柿を使ったジャムを販売したい意向を踏まえ、これまで商品開発に向けた検討を重ねてきた。今回、揖斐川町で活躍されている農業婦人クラブ「揖斐峡レディース」が商品開発に協力いただけることになり、大野町産

【ジャム加工研修会と完成した「柿じゃむ」】

富有柿を使用した「柿じゃむ」の製造を試験的に行うことができた。
　農業普及課では、レシピの提供、加工指導、地元ファーマーズマーケットとの調整を行った。今回すべてが初めての試みのため、大野町内の JA いび川ファーマーズマーケットで 11 月 29 日(土)から試験販売（限定 100 個）を行い、今後の商品開発に向けた検討を進めていく。

多様な担い手の育成・確保

郡上農林■高校連携　郡上地域農業教育懇談会を開催

【教育懇談会の様子】

　11 月 25 日、郡上高等学校において、郡上指導農業士会、農業科教諭、関係機関が参加し、郡上地域農業教育懇談会が行われた。この懇談会は、農業普及課のコーディネートにより昨年から実施されているもので、今年初めて、生徒による指導農業士宅の経営訪問が実現した。
　学校側からは、生徒の指導農業士経営訪問のアンケート結果や、日本一に輝いた「鶏ちゃんライスバーガー」などの活動紹介があり、ＪＡからは夏秋トマト新規就農者研修事業について話題提供がされた。
　その後、「農業経営者として必要な資質・能力の育成」について協議され、指導農業士からは、技術的には、「作物等の変化を感じとる感性」が必要であり、心構えとしては、「農業は楽な仕事ではないが、それを楽しいと感じることができるかが大切で広い視野が必要」などの意見が出された。

可茂農林■青年農業者　「可茂ん！農カフェ」～新規就農者等と意見交換会を実施～

【テーマについて
語り合う参加者】

　農業普及課は、指導農業士会が取り組む各種の担い手育成活動について支援を行っており、11月21日には可茂地区指導農業士会主催により新規就農者等青年農業者との意見交換会を可茂総合庁舎において開催した。
　当日は、管内の新規就農者や後継者ら18名のほか、指導農業士、女性農業経営アドバイザー、青年農業士や地域のリーダー的農業者、地元選出県議会議員及び可茂農林事務所職員を含む合計49名が参加し行われた。
　農業普及課は、今回の企画段階から指導農業士会と打合せを重ね、参加者募集と準備及び当日の運営について支援した。
　意見交換は、４人ごとでテーブルを囲み、お茶を飲みながらくつろいだ空間の中で「ワールドカフェ方式」により行い、「好きです農業！語ろう夢と未来」をテーマとし、各参加者が農業の魅力や地域の良いところ、将来の夢などについて、ひざを突き合わせてそれぞれの想いを語り合った。参加者の中からは「管内の多くの若い農家が頑張っていることに心を強くした」、「多種多様な農家と交流できて良かった」という感想が聞かれた。今回の行事は、地域の農業者間の仲間づくりを促進する良い機会となった。

恵那農林■新規就農者　指導農業士らと交流！　～恵那地域新規就農者交流会を開催～

　恵那農林事務所農業普及課では、11月21日、新規就農者が速やかに地域へ溶け込めるよう地元の指導的な立場にある農業者と交流する「恵那地域新規就農者交流会」を開催した。
　この交流会には新規就農者（平成23年度以降の就農者）6名を始め、指導農業士、あすなろ農業塾長、ＪＡ・市関係者など計23名が参加した。

講演者として壇上に登ったあすなろ農業塾長の鷹見豪氏は、トマト生産者としての自らの歩みを振り返り、経験の全てが財産になることや、産地の一員であることの大切さを熱く語った。

また、新規就農者からは、「失敗して結果がついてこないのはすべて自分の責任。うまくやれば結果に反映されるのがトマトづくりの魅力。トマトとの知恵比べが楽しい」「先輩のアドバイスで何とか立て直せた」など、それぞれの思いを述べた。

農業普及課からは新規就農者の農業への取り組み状況を報告し、終わりに指導的立場の農業者や関係者が、助言や応援の言葉をかけた。また、これからも新規就農者が安心して農業に打ち込めるよう、地元の農業者との交流の場を作っていきたいと考えている。

【講演するあすなろ農業塾長と、話に耳を傾ける新規就農者ら】

飛騨農林■新規就農　就農準備研修会の開催　～就農に向けてパワーアップ！！～

飛騨農林事務所農業普及課では、飛騨管内で 27 年度以降に就農予定の長期研修生及び研修予定者 18 名を対象に、11 月～2 月の毎週水曜日（県農業会議主催の複式簿記講座開催日）の午後に、「就農準備研修会」を企画・開催している。

初日の11月12日には、日比野農業普及課長が「飛騨農業の歴史と気象」、和仁就農・就業アドバイザーから「土づくり」について講義があり、２回目の19日はＪＡひだ農機センター所長から「安全な農業機械操作」について実技指導があった。さらに、３回目の26日には病害虫防除所飛騨支所浜崎技術主査から「病害虫対策」をテーマに講義が行われた。

【農業機械について学ぶ研修生】

今後、研修会は、県や市、農協の協力を得ながら2月までの７回が予定され、土壌診断と作物生育改善、ぎふクリーン農業やＧＡＰ、農産物流通、試験研究の取り組みや植物の生理生態、農協事業、農業経営等、就農に必要な知識の習得を目指し開催する予定である。

西濃農林■集落営農組織　関ヶ原町山中営農組合で意見交換会を実施

11 月 5 日、集落営農システムサポート事業の一環として、第２回集落営農塾を開催し、同日夜に楠本講師を招いて山中営農組合役員の意見交換会を開催した。

営農組合長から、地区の耕作面積は 10ha 程度と小規模であり、経営試算では収支が赤字になる等の問題点が出された。楠本先生からは、「農地を維持するための方法として集落営農による運営があり、人や地域の結びつきを考えていくことが大切」、「山中地区よりも条件の悪い島根県の集落でも法人化し、経営も安定している事例がある」、「女性や若者など幅広い意見を取り入れていくべき」などが提案がなされ、山中地区でもさまざまな取組方法を追求していける可能性が示された。山中地区は営農組合法人化の方向へ向かっているが、農業普及課として、今後の取組方法について検討会を設けるなどの支援を行って行く。

【意見交換の様子】